

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育目標】 確かな学力を身につけ、こころ豊かで、たくましく主体的に生き抜く生徒の育成</p> <p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校 <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに心のこもった挨拶ができる生徒 ・ねばり強く取り組むたくましい生徒 ・優しく人の気持ちがわかる生徒 ・真面目に意欲を持って生き生きと活動する生徒 <p>◎確かな学力の育成 ◎豊かな心の育成 ◎開かれた学校づくり</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力課題の分析に基づいた授業、学力の定着を図る校内授業研究会、週末課題、補習・補充学習の実施 ・京都式少人数授業の実施（英語・数学） ・不登校生徒への組織的な対応により好転した生徒が増加 ・多様な指導方法による道徳授業の実施 ・組織的な体制と早期発見・早期指導により問題事象が減少 ・積極的な学校公開、情報発信 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学力生徒への指導、家庭学習の定着、意欲・関心を高める指導方法 ・不登校生徒の解消と未然防止 ・全教育活動を通して人権意識・規範意識を醸成する指導 ・個別の支援計画による個々の生徒への具体的な指導 	<p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の授業実践力の向上を図る。 ・生徒の言語活動の充実を図る。 ・家庭における学習習慣の確立を図る。 ・総合的な学習の時間の内容を一層充実させる。 ・朝読書等読書活動の推進を図る。 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・人権・規範意識の醸成を図る。 ・不登校・いじめの未然防止のため組織的計画的取組を進める。 ・健全な食生活を目指し食育を推進する。 ・体力の向上を図り、健康で安全な生活をする力を育てる。 <p>【開かれた学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への対応を的確に行うとともに先行実施を図る。 ・指導方法の工夫改善により学習意欲の向上を図る。 ・学習規律を確立させ家庭学習習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を見直すとともに、授業時数の確保を図る。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、週末課題・小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・少人数授業（数学・英語）を効果的に実施する。 ・校内授業研究会を実施し指導力を高める。 ・生徒の学習状況を毎週交流・点検する。 	<p>○新学習指導要領への対応が的確にできた。</p> <p>○指導方法を工夫した結果、生徒の学習意欲が向上した。</p> <p>○少人数授業、習熟の程度に応じた授業は分かりやすいという生徒が多く意欲の向上に役立った。</p> <p>○全教員で学習状況等の交流を行い具体的な指導方針を立て授業規律向上に努めている。</p> <p>△家庭学習時間が少なく学習習慣を定着させることが課題である。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の実態を早期に把握し未然防止に努める。 ・生徒の主体的な取組を進め向上心を育てる。 ・保護者の教育に関する悩みに丁寧に対応する。 ・関係諸機関との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのふれあいの時間を確保し、学級・学年経営及び部活動指導の充実を図る。 ・問題事象は、報告・連絡・相談を徹底し、毎日の生徒指導部会及び学年会で則対応をする。 ・不登校は毎週の教育相談部会やケース会議で実態把握と分析、具体的な方針を立てる。 ・全校集会、学年集会、生徒会で生徒の動きを作る。 ・教育相談を進めるとともに、PTAへの積極的な情報提供を行う。 ・警察、児童相談所、京丹後市等と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動は全教職員で早朝から指導し、生徒保護者から信頼と感謝の声をいただいている。市や府大会で峰中始まって以来の成績を収めた。 ○アンケートや的確な日々の実態把握により、問題事象を早期に把握、的確に指導できた。 ○個別の指導計画、ケース会議、SCとの連携、継続的な保護者面談等組織的対応により回復している。 ○生徒会・学年委員長会等生徒の意識が向上した。 △家庭との連携を図り規範意識・人権意識を高める。 △善悪の判断力を向上させる。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育を系統的に進める。 ・食育の推進を強化する。 ・安全意識の向上を図る。 ・体力の向上を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 ・交通安全指導を徹底する。（交通教室、PTAとの連携） ・避難訓練を実施し安全意識を高める。 ・朝の練習、部活動の推進、体育授業の工夫等を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各分野で現代的課題に対応する保健教育を行った。 ○給食マナーや感謝等食に対する意識が向上した。 ○避難訓練を実施し地震火事等への安全意識を高めた。 ○体育活動の推進に力を注ぎ高い評価を得た。 △自転車の交通マナー向上は依然として課題である。 △食育を教科と関連させに推進することが必要である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を計画的に推進する。 ・情報提供と進路相談を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・体験活動に基づき意識の向上と啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的・系統的な進路指導を各学年で実施した。 ○福祉体験（1年）職場体験（2年）体験セミナー（3年）等の啓発的な体験活動が定着した。 ○二者・三者面談を早期から実施し生徒保護者ともに意識が向上した。
小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見据えて、課題を共有化するとともに、その克服に向けて連携を一層充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力充実の取組を進める。（学力分析、授業参観、出前授業、体験授業、合同研修会） ・生徒指導・教育相談担当者会を定期開催し取組を進める。（問題行動、不登校児童・生徒の課題交流等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中の学力課題や指導方法を交流し指導力が向上した。 ○問題行動や不登校未然防止に関する指導が充実した。 ○小中の連携・円滑な接続が進んだ。 △小中の一貫した系統的な指導が望まれる。
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に積極的な情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。 ・地域へのボランティア活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事には500名の保護者や地域の人が参観した。 ○クリーンキャンペーン活動を実施し好評であった。
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎学力の充実・向上と心の教育を基本に据えた学校経営</p> <p>1 わかりやすい授業を行い、家庭学習の習慣を育て、学力の充実・向上を図る。</p> <p>2 生徒や保護者の実態に基づき、効果的・具体的な指導を重ね、問題行動や不登校の未然防止、的確な対応に努める。</p> <p>3 心の教育を根底に据えて、安全安心な学校づくりに努め、保護者や地域からの信頼を得るよう努力を重ねる。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。</p> <p>2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。</p> <p>3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性の育成を図る。</p> <p>4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・教育活動に対する「結果責任」意識の高揚 ・社会動向も踏まえた新しい手法等による教育活動の質的向上</p>		<p>「文武両道」を伝統とする学校として、心技体の調和のとれた生徒の育成をめざし、諸活動を通して信頼される学校づくりに努めた。</p> <p>○課題への共通理解と全体指導を重視し、協働意識も高め、不安定化を防ぎ安定化に向けた基盤ができた。</p> <p>○授業改善に向けて授業研究等に工夫努力し、学力向上につながる具体的な取組が進んだ。</p> <p>○外部講師の活用や生活姿勢の指導項目の統一等を通して自尊心の高揚と自律した心の育成につながった。</p> <p>○学校支援地域本部事業を積極的に活用し、地域に支えられる教育活動が推進できた。</p> <p>△分かりやすく、意欲の高まる授業づくりを追求する。</p> <p>△問題事象の増加を踏まえ、生徒の変容につながる学級経営、生徒指導をめざし、一層の工夫と努力を行う。</p> <p>△不登校問題の改善に向けて、多面的な検討を進める必要がある。</p> <p>△若手教職員の人材育成を進める。</p>	<p>～規律があり、気持ちよく生活できる学校～</p> <p>☆ ふれあい・対話を通して、友を支え励まし合う、規律ある生徒を育てる。</p> <p>☆ 分かりやすい授業を通して、基礎学力の定着や言語力の育成をめざし、学力向上につなげる。</p> <p>☆ 道徳教育、体験活動、部活指導を通して、心の豊かさ、たくましさ、自律心を育てる。</p> <p>☆ 小中連携、地域連携を通して、教育活動の充実、質的向上をめざす。</p> <p>《生徒に求める心と姿勢》</p> <p>① 気持ちよく挨拶する。(いつでも、どこでも)</p> <p>② 感謝の心を持つ。(ありがとうの心と言葉を)</p> <p>③ 相手そして“自分の持っているもの”を大切にする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(相手、次に自分)</p> <p>《教育活動への信頼度》</p> <p style="text-align: center;">生徒評価・・・71% → 保護者評価・・・83% →</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>○指導力量、授業改善につながる研修の充実と意欲的な授業公開に努める。</p> <p>○生徒の学力を高めるため、組織的・意欲的な活動を展開する。</p> <p>○授業改善に向けた計画的な活を展開する。《教科共通目標の観点》</p> <p>①開かれた授業と指導力の向上 ②規律ある分かりやすい授業 ③基本の徹底、言語力の育成</p>	<p>☆「見せる、見せられる」教育活動を積極的に進め、学校教育の充実並びに指導力の向上につなぐ。</p> <p>☆目標を明確にした授業公開を進め、評価を受ける中で授業改善を進める</p> <p>☆各学力テストの分析や授業評価アンケート(2回)等を通して学力実態、学習状況を把握し、期待に応える授業・学習指導を進める。</p> <p>□学習指導の目標を意識した授業研究を計画的に実施し、授業改善を進める。(各教科1～2回授業研、全体授業研3回実施)</p> <p>□各種学力テスト等を分析・検討し、各教科に指導の方向性を示す。</p> <p>□協同学習(10日間×3回)、「学集会」(休業中の学習活動)、ふりスタ、家庭学習支援等を通して学習状況を把握し活動の活性化に努める。</p>	<p>○6回の休日参観日を含む13回の参観日を設定し、1800～2000名の参観者があった。</p> <p>○授業評価アンケートを年間2回行い改善に活用すると共に基礎重視の授業づくり、週末課題学習など実態を踏まえた活動を展開した。「ふりスタ」は1学期から冬休みまで実施した。</p> <p>△学力向上につながる授業改善と授業規律への組織的総合的な努力の継続。</p> <p>△自学自習の確立と学習習慣の定着に向けた家庭連携の充実。</p>
危機管理 情報管理	<p>○危機管理意識を高め、相互チェック体制を通して信頼される学校づくりを行う。</p> <p>○人権の視点に立って、生徒の個人情報の管理、配慮を徹底する。</p>	<p>☆生徒にとって安心安全な状況に関係機関との連携も踏まえて確立する。</p> <p>☆生徒の個人情報管理と人権への配慮を徹底する。</p> <p>□報告・連絡・相談、相互指摘を大切にし、信頼される教育活動をめざす。</p> <p>□情報機器の活用は長所短所を意識し、複数の情報管理を徹底する。</p> <p>□通知、報道などを通して、教育活動全般の危機管理意識を高める。</p> <p>□外部への文書は教育的配慮、人権の配慮を行い、回議・決裁を徹底する。</p>	<p>○健康で安全な生活を第一と考え、あらゆる機会を捉え、交通マナーを中心に指導を徹底した。</p> <p>○安全に関わる関係機関連携の活動を進めた。</p> <p>○PC活用による成績処理等について課題点を共有し意識を高め、適正な処理を徹底した。</p> <p>○報道や本校の教訓等を活用し、危機管理意識を高めると共に外部への文書は決裁を徹底した。</p> <p>△社会状況を踏まえた危機管理意識の醸成</p> <p>△自律的な安全生活意識の育成</p>

健康安全	<p>○健康を第一に考え、健康と安全に関わる指導、訓練を計画的に行い徹底する。</p> <p>○生徒の安全を守るための関係諸機関との連携を進める。</p>	<p>☆登下校の安全、学校内での安心安全な生活について指導を進め、自ら安全に生活できる力を育てる。</p> <p>☆避難訓練並びに情報化社会への適正な対応力について指導を進める。</p> <p>☆PTA活動と連携し交通安全等生徒の安全に関わる取組を展開する</p> <p>□生きた教材としての学校給食に関する活動・取組を通して、食生活への関心を高める。(給食委員会との連携)</p> <p>□安全につながる基本的な生活習慣の充実に努めると共に、生徒会・委員会活動と連携した取組、活動を展開する。</p> <p>□保健体育科と連携した性教育や保健指導等の充実を進める。</p>	<p>○定期的な交通安全指導、PTA活動(「ここにこカー」活用 21 日間)と連携した活動等を通して安全指導を行った。全学年で安全教室の実施。</p> <p>○課題を踏まえ、歯の学習指導を実施した。</p> <p>○食育の充実に向けて講話、実習、取組を集中、継続的に行った。(地域食改組織との連携)</p> <p>○薬物防止、性教育等の外部連携や講話を行った。</p> <p>△交通安全指導の徹底と情報化社会への対応。</p>
生徒指導 教育相談	<p>○支え合い、指摘し合える生徒を育てるための緻密な学級経営</p> <p>○生徒の内面理解に努めると共に問題事象や現状の背景分析と家庭、関係諸機関等との連携を丁寧に進める。</p> <p>○報告・連絡・相談による早期発見、早期対応(個別指導)の充実を進める。</p> <p>○スクールカウンセラー、教育相談担当者との連携の充実。</p>	<p>☆ふれあい、話し込みを大切に、事象対応は「スピード・丁寧・誠実」を意識し、動きを止めない指導を進める。</p> <p>☆ルール、マナーを守り、挨拶のできる生徒を育てる。</p> <p>☆定期的にアンケート等を実施し、生徒の悩みや相談について把握し、指導・支援を行う。</p> <p>□支え合いと他者へ指摘できる態度の育成など学級経営の重視を軸とし、反社会的問題事象の減少を進める。</p> <p>□支え合う心の育成、他者との関わりを大切に学級経営の重視を軸とし、不登校生徒の減少に努める。</p> <p>□家庭訪問など保護者との接点を大切に、専門家との連携を通して、各生徒の早期改善をめざす。</p>	<p>○反社会的事象は減少(3割減)したが、緊張感のある学校状況の中で、協働意識を高め、前向きな努力が継続できている。</p> <p>○不登校問題の改善に向けて、手法の工夫や様々な連携を進めると共に小中連携の充実を図った。(フリースクールとの連携)</p> <p>△規範意識の向上と挨拶のできる生徒の育成</p> <p>△不登校問題の改善につながる努力と一層の工夫</p> <p>△気持ちよく登校できる学校をめざし、支え合う人間関係を築く学級づくりの推進</p>
進路指導	<p>○進路実現をめざし、各学年で実態に合った効果的な進路学習の指導を行う。</p> <p>○進路に関わる保護者連携、情報発信を各学年で丁寧に行う。</p>	<p>☆3年間を通して系統的な進路情報の提供を行うと共に、12月に全学年で三者面談を実施し、指導に生かす。</p> <p>□将来を見通した系統的で体験的な進路学習(キャリア教育)の充実を進める。</p> <p>□3年生の希望進路実現に向けて課題意識を高めるため、2学期以降の学習活動の充実を進める。</p>	<p>○全学年三者面談は進路・学習・生活全般を考えるよい機会となっている。</p> <p>○地域の協力を得て農業、福祉、職場体験等を実施した。(生徒評価 87%、保護者評価 95%)</p> <p>○丁寧な進路情報の提供に努め、生徒・家庭の意識を高めることができた。(保護者評価 82%)</p> <p>△キャリア教育と若手教員への研修の充実</p>
開かれた 学校づくり	<p>信頼される学校づくり</p> <p>○学校開放と教育内容の充実を進める。</p> <p>○積極的な広報活動に努め、地域貢献を進める。</p> <p>○評価活動を進め、教育内容の充実につなげる。</p>	<p>☆教育活動に対する外部評価、各アンケートを行い、次年度に生かす</p> <p>☆教育活動の公開、発信を心がけ、地域連携の教育を推進する。</p> <p>☆ホームページ更新を定期的に行うと共に、利用しやすさを追求する。</p> <p>□ホームページ更新のできる教職員を複数養成する。</p> <p>□民生児童委員、保護司会など関係団体との連携を大切に、情報交流を進める。</p>	<p>○活動の公開を通して教育活動と指導力を高めようとする姿勢が定着した。</p> <p>○教育評価アンケートの分析結果のPTA説明、一般公表と次年度への活用を行っている。</p> <p>○情報発信を心がけ、ホームページ更新(45回程度)は積極的に実施した。(PTA閲覧率 49%)</p> <p>○学校支援ボランティアを活用し、教育活動の充実につなげた。(5種10名延べ70日程度)</p> <p>△学校と保護者の連携充実に向けた工夫と努力</p> <p>△地域と連携した教育活動の質的向上</p>
次年度 に向けた 改善の 方向性	<p>文武両道の伝統を継承し、生徒・保護者・地域社会から信頼される、より良い学校づくりを進める。現状を踏まえ危機感を持ち、目標の焦点化、明確化を進め、責任感、組織力、協働意識を通して、課題(規範意識、支え合える心の育成、基礎基本の徹底、不登校課題)の解決改善につなげる。教育活動を支える心として、「生徒に求める心と姿勢」をあらゆる角度から指導する。</p>		<p>(次年度の重点目標の方向性)</p> <p>1 規律ある学校・学級経営の充実</p> <p>2 分かりやすい授業を通じた学力充実、向上</p> <p>3 生徒会活動や部活動の充実</p> <p>4 小中連携の量的質的充実と地域活用の教育推進</p>

平成 22 年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学び、確かな学力を身につける。 ・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。 ・心身を鍛え、克己心を養う。 ・地域に開かれた学校作りを進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律の向上に伴い、各種テスト結果において全国・府平均を上回るなど、取組の成果が徐々に現れてきているが、まだまだその成否が個々の教師の指導力に左右されている。 ○全体として規律ある学校生活が送れるようになり、好ましい人間関係が広まった。 △不登校出現率は低位に留めているが、退学傾向にある反社会的問題事象を繰り返す生徒への効果的な指導が急務である。 △あいさつや制服の着こなしなど外部の評価に耐えられる価値観をさらに育成する。 ○校種間・関係機関・関係団体との連携が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校体制の確立を図る。(学校評価の効果的な活用、初任者研修の充実) ・網野中学校区校種間連携事業の推進を図る。 ・生徒指導の充実を図る。(生徒の内面に迫る指導、不登校・いじめなどへの敏速かつ適切な指導) ・生徒の学力向上を図る。(適切な教育課程の編成、各種テストの分析結果を生かした授業改善) ・重点目標「学習規律の確立」 <p>【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人の話を聴く」「時間を守る」「考える」
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を基盤とした授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力充実向上部、生徒指導部を中心とした授業規律の徹底 ・校内授業研究会(年4回)の実施 ・少人数授業における効果的な講座編制(国・数・英) ・学力実態分析と課題の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律の確立を基盤とした授業改善の成果が、府学力診断テスト、全国・学力学習状況調査など、各種テスト結果(国・数・英)の平均点に数値として現れた。 △授業規律の確立、基礎学力の定着が、依然として教師の指導力に大きく左右されており、教科部会の充実など、指導方法の工夫改善をさらに組織的に進めていく必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成 ・生徒との信頼関係の構築 ・好ましい人間関係の育成 ・教育相談活動の充実と家庭との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・毅然とした指導、複数指導等の全教職員の一致した組織的な指導(週1回定例の生徒指導部会及び教育相談部会の実施、週1回定例の「気づき」の発行による全教職員の共通理解、保健室を中心とした教育相談活動及び情報収集) ・部活動、業間指導等、生徒とのかかわりの重視 ・望ましい集団活動の活性化(体育祭、合唱祭、部活動、ボランティア活動における活動の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として規律ある学校生活が送れるようになった。 ○体育祭、合唱祭など、上級生を良き手本とし好ましい人間関係が校内に定着してきた。 ○不登校出現率(年間30日以上)を低位にとどめることができた。(H21年度7名、H22年度8名) △課題の大きい生徒に対して、関係機関との連携を含め同じ過ちを繰り返さない指導を進めていく必要がある。

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進 健康教育、性教育の充実 安全に対する意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察、保健室の来室状況の把握、養護教諭と連携した組織的な指導、保健だよりの発行 薬物乱用防止指導、性教育等の系統的・計画的な実施 毎日の登下校の安全指導の励行、定期的な PTA 登校指導、交通安全教室の実施(1年)、避難訓練の実施 生徒会保体委員会の活動の充実 	<p>○健康管理を適切に行い、健康づくりを推進した。</p> <p>○外部講師の活用など性教育の指導計画を見直し、3年間を見通し実態に合った指導計画に改善できた。</p> <p>○ヘルメット着用が定着し、登下校中の交通事故発生も減少した。</p> <p>△一旦停止、2列走行など、交通安全に対する危機意識の高揚を図る必要がある。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望の実現を目指す取組の充実 自己理解、望ましい職業観の育成 進路情報の周知と啓発的な体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習(各学年)、福祉体験活動(3年)職場体験(2年生)の実施。 生徒対象の講話学習(職業安定所職員、高等学校教員)、保護者対象の進学説明会の実施(6月:3年、10月:全学年対象)、進路だよりの定期的な発行 高校が実施する体験学習や体験セミナーへの積極的参加 全学年三者面談の実施(11月)二者面談(必要に応じて) 	<p>○啓発的体験活動を計画的・系統的に実施し、大半の生徒が意欲的に参加し学ぼうとするようになった。</p> <p>○進路情報を適切に保護者へ周知し、進路指導を進めることができた。</p> <p>△自己実現に向け、よりきめ細かな個別の指導を行う必要がある。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 校内体制の整備 障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストの活用による実態の把握 通級指導教室の開設に伴う校内体制の充実 通級指導加配の研修による専門性の育成と校内研修会の実施(外部講師の活用) 	<p>○通級指導教室を活用し、通常学級に在籍する支援を必要とする生徒の個別の指導を推進することができた。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを窓口とし、関係機関や保護者との連携を図りながら進めることができた。</p> <p>△通級指導教室について保護者に周知するとともに、さらに丁寧な支援を進めていく。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた学校づくり 双方向の情報交流を生かした学校運営 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 網野中学校区校種間連携事業の推進{小中高連携・関係機関・関係団体との連携(病院、市民福祉課、警察、保護司、民生児童委員等)} 地域の教育力の活用{ボランティア活動、職場体験、福祉体験、伝統文化体験学習、選択教科の外部講師(美術・家庭)} HPの定期的な更新 	<p>○生徒指導上の問題事象に関わる新聞報道があったにもかかわらず、地域や保護者の理解と協力を得ながら教育活動を進めることができた。</p> <p>△保護者のニーズに応えるため、HPによる情報発信をさらに工夫改善する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立を基盤とした授業改善による基礎学力の定着(授業力の向上を目指した校内授業研究会と教科部会の充実) 生徒の自律的な力、支え合う力の育成(生徒指導部と特別活動部の連携、行事や生徒会活動のさらなる工夫、部活動全体の活性化) 学習指導・生徒指導・教育相談、特別支援教育における校区内小中連携、関係機関、関係団体とのさらなる連携強化(情報連携から行動連携へ) 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立橋中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 学校教育目標 知・徳・体の調和のとれた発達を図るため、「基礎学力の定着」と「学力の向上」を図り、「豊かな心」と「主体的に生きる能力」の育成に努める</p> <p>2 目指す生徒像 (1) 授業規律を守り、集中して授業に取り組む姿勢を大切にする生徒 (2) 基礎・基本の学力を身に付け、目標を持って学習に取り組む生徒 (3) 自分も他人も大切にする心を持った生徒 (4) 何事にも「頑張り」「努力する」生徒 (5) 郷土を愛し、地域に貢献する心を持った生徒</p> <p>3 学力向上のための具体的目標 1年 授業規律と基礎学力の定着 2年 学習意欲の向上と学習習慣の定着 3年 学力の向上と進路を目指した計画的・意欲的な学習</p>		<p>(成果)</p> <p>○目標準拠学力検査、全国学力学習状況調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、学力は定着しており、特に3年生は大きく定着・向上した。</p> <p>○小さい事象を見逃さない指導や家庭・保護者と連携した素早い対応により、問題事象は少ない。</p> <p>○地域行事への参加体制をとり、合同行事も生まれ、多くの参加が実現した。</p> <p>○地域に公開した作品展等の学校行事は、新聞折込やPTA行事との関連付け等により、参加者が増えた。</p> <p>(課題)</p> <p>△不登校生徒は近年0であったが、1名となった。不登校傾向生徒は回復したが、引き続き重点的に指導を継続する必要がある。</p> <p>△少人数授業の充実と個の指導で学力向上</p> <p>△特別支援学級生徒への複数配置の授業形態による基礎基本の定着および社会性や生きる力を身に付けさせる指導の実施</p>	<p>1 学力向上プラン (1) 授業改善の推進 ア「授業に集中できる」生徒の育成 イ「英語・数学」の習熟度別少人数授業による個に応じた指導の充実 (2) 補充指導の実施 ア夏季・冬期休業中 イ「ふりスタ」の活用(1学期、夏季) (3) 広域テストの得点力の向上 (4) 学力向上を焦点化した小中連携の推進</p> <p>2 豊かな心と主体性の育成プラン (1) 道徳教育の充実 ア年間計画に基づいた授業実践 イ「京の子ども、あすへの扉」の有効活用 (2) マナーや規律を向上させる指導の推進 (3) 職場体験、福祉体験学習の効果的活用 (4) 小学校から引き継がれた友人関係の課題解決 (5) 特別支援学級生徒の「社会性」「自立性」を身に付けさせる指導の推進</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>◇学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 読解力向上の視点・学力検査の分析・授業規律の確立に基づいた授業改善 家庭学習の定着 諸制度の積極的な活用 小中連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の視点を明確にした月1回の校内授業研を実施する。 「学習の手引き」や「進路の手引き」の活用を図る。 SHRのドリル学習及び3年生放課後学習の工夫をする。 効果的な少人数授業を推進し、ふりスタの効果的活用をする。 全国・府学力診断テスト、CRTを分析して授業改善を図る。 家庭学習定着のために保護者への啓発を図る。 小中の相互の授業参観、合同の校内研修会を実施する。 	<p>○月1回の校内授業研を実施し、教師の指導力量を向上させた。</p> <p>○ふりスタを活用し、学習支援員・教科担当・学年が連携を図り早期に実施し、1年生の基礎学力を向上させた。</p> <p>○全校のドリル学習および2学期からの3年生の放課後学習会により、学力を向上させた。</p> <p>○数・英では年間を通して習熟度別学習を実施し、個に応じた指導により数学の基礎学力を向上させた。</p> <p>○小中の相互の授業参観や授業アンケートから、それぞれの役割と関連性を理解し、連携を推進した。</p> <p>△週末課題や学級の取組等を実施しているが、アンケート結果からも家庭学習の時間が増えた状況にない。</p> <p>△授業規律や学習に対する意欲が十分に育成されていない。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒のより良い人間関係の育成 ◇危機管理意識に基づく、問題行動の未然防止 ◇不登校生徒の未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部会・生徒指導部会を定例化し、組織的な対応をする。 ・スクールカウンセラーを活用し、不登校生徒対応や教職員の教育相談スキルの向上を図る。 ・委員会活動等を計画的に行い、生徒会活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーも参加をして、教育相談部会を週1回火曜日に行い、不登校傾向の生徒の課題を解決した。 ○問題事象がおこった時、生指主任を中心に組織的対応を行い、保護者と連携をしながらその日のうちに解決した。 △生徒相互の望ましい人間関係が構築できず、問題事象の発生や欠席に繋がる課題がある。 △遅刻、下校時間の厳守、言葉遣い等学校生活での規律に課題がある。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒が日常生活や安全教育・性教育等を通して、主体的に健康で安全な生活を創り出す態度の育成 ◇食育教育の推進による正しい食生活への理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室、防犯教室、避難訓練を実施する。 ・養護教諭が中心となり、性教育を実施する。 ・登下校の安全確保を保護者と連携して実施する。 ・校内施設・設備の安全点検を学期に1回以上実施する。 ・給食週間等の機会を活用して、食育の取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練等を教育課程に位置付け、関係機関と連携をして実施し、生徒に危険が身近にあるという認識を持たせ、対応方法について指導した。 ○毎週月曜日PTAと協力して登校指導にあたり、マナーの改善と交通安全への意識の向上を図った。 △ケガ、風邪の防止に対する意識が弱い。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◇保護者等の連携を軸にした教育活動の展開 ◇学校評価による教育活動の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、保健だより、図書館だより、食育だより等計画的に発行する。 ・学校関係者評価を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の学校だより、週1回の学級だよりや新聞折込による行事の周知と参加への呼びかけにより来校者が増えた。 △学校評価を校務分掌と関連させ組織的に進める。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ◇3年間を見通した計画的・系統的な進路指導・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で体験学習を実施する。 ・奨学金制度も含め高校制度等の情報をあらゆる機会を通して、生徒・保護者に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育計画に基づき、体験学習を実施し「働く」意義や職業について自分の事として考える生徒が増えた。 ○3年生は、三者面談・進路説明会（夜の保護者対象も含め）を持ち、進路決定に役に立った。
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◇豊かな心と主体性の育成プランの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会によるあいさつ運動および橘中マナーアップキャンペーンの取組を実施する。 ・客観的なアンケートを実施し、生徒の現状を把握する。 ・保護者の協力をお願いして学校行事を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権（1・3学期）・学習（学期の終わり）・生活アンケート（2学期の終わり）により生徒の課題を踏まえて課題解決の指導に取り組み、生徒に授業規律や人間関係を改善する自覚を持たせて、学校生活を改善した。 ○学校行事に例年より多数の保護者の参加があった。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒・傾向生徒の回復と未然防止の推進。 ・習熟度別指導等、少人数授業の工夫および全教科・教員による生徒自らが授業規律の向上を自覚する指導の推進。学力伸長を目指すコースにおける授業の工夫改善の推進。 ・総合的な学習の時間の授業公開に対応することも含めた校務分掌の見直し及び内容と担当の明確化 ・特別支援学級の生徒の学力保障に関わる授業の在り方の工夫 ・保護者や地域住民に学校に来て頂く機会を増やし（月1回の授業参観等）、学校の現状や取組を公開・共有化することによる連携の深化 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立間人中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
自律した生活姿勢と学力の育成		○ノーチャイムの生活時間が定着し、自主的な活動が円滑に行なわれるようになった。 △学習課題に取り組む意欲的な生徒が増えたが、生徒同士の意見交流や教えあいのできる良好な関係づくりに課題を残した。	生きる意欲と創造性の育成に努める ・ 思考力の向上、表現力の向上、積極的な行動力の向上、規範意識の向上
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	基礎学力の向上をめざした授業改善と教科補充を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業スタイルの確立（授業開始の既習事項整理、中心発問・質問、終末の確認、授業評価等の実施） 家庭での学習課題提示（英語・数学）、重点項目確認テストの実施 秋季大会後より週二回の補充学習の実施 	<p>○学習内容の振り返り点検と日々の宿題の定着により、計算力アップにつながった。</p> <p>△思いの程を自在に書くことができ、生徒同士が表現し合える場を設定することが必要である。</p>
生徒指導	生徒理解を図り、言動の振り返りや今後の生き方にを迫る適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談タイムの実施、個人面談、SCとの連携 生徒の状況把握（一週間単位）、評価点の公開 生活規律向上（学習規律、時間厳守、奉仕活動） 	<p>○情報の共有化を図れた。面談により生徒の目標達成の確認ができ、支援策の検討ができた。</p> <p>△清掃活動等行うべき活動を積極的に行うよう、心に迫る指導の継続が要る。</p>
健康(体育)・安全	基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健康で安全に生きていく実践力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 部活動による身体づくりの継続 給食における偏食等残菜量減少の指導 安全教育（交通マナー、登下校指導、避難訓練等）の充実 	<p>○家庭の協力により朝の活動がリズムよく開始され、生徒の9割は遅刻なく登校できている。適度な運動が給食を完食する生徒が多いことに関連してきていると思われる。</p> <p>△積極的な朝練習となるよう生徒の受身的な活動を改善していくことが必要である。</p>
進路指導	多様な価値観と心を育てるキャリア教育を踏まえた学習（講話、体験活動）を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動をとおして勤労の尊さを実感し、内容をまとめる力の育成 社会人講話（生き方を学ぶ、就職状況、高校生活、仕事の生きがい等）の実施 	<p>○社会人講師から聞いたことや感じたこと、体験したことをもとに自分の考えを深める機会となった。</p> <p>△より具体的に将来を展望する学びの時間として系統的に計画していくことがいる。</p>

特別支援教育	発達障害を含め、障害のある生徒一人一人の実態把握と教育的ニーズに応じた支援を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒のアセスメント票に基づいた指導を展開し、定期的に検証していくシステムの確立。 ・教科担任会の定例化を行い、基礎学力の向上を図る。 	<p>○個別の指導計画をもとに授業が展開され、発言や質問が増えた。学習支援員の補助により、学習への集中が保てるようになった。</p> <p>△細かな学習の検証を行い、到達状況と学校生活における実情を把握する必要がある。</p>
特色ある学校づくり	保護者や地域に、学校の現状(教育活動)を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外奉仕活動(異年齢ブロック浜掃除、小中連携による町内奉仕活動、生徒・PTAによる資源回収等)の実施 ・生徒の活動(部活動参観、福祉施設への吹奏楽慰問活動、暗唱・スピーチ発表、ミニコンサート)の発信 ・学校支援ボランティア(部活動の支援)の活用 	<p>○暗唱やスピーチ発表の取組は、教科学習の成果を発信できる機会になった。</p> <p>○資源回収には地域の方の協力を実感した多くの生徒がいた。</p> <p>○部活動の支援ボランティアの方による支援により部活指導の効率化や生徒の意欲の高まりが見られた。</p> <p>△小学生を先導していく力が中学生に身につくとさらに活動が充実する。積極的な地区の会議運営ができる生徒の育成をめざす必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎基本の定着と落ち着いた学習環境づくり(生徒同士の教えあいや意見交流ができる) 2 果たすべき役割を全うする力をつける(当番活動、仲間との協力、集団行動) 3 リーダーの育成(部活動、専門委員会の活性化) 		

平成 22 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 質の高い学力の育成 2 進路指導の充実 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上	1 一人ひとりに質の高い学力の育成を図る。 ○研修と授業改善、生徒の意欲を引き出す取組ができた。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 △三年間を見通した系統的な進路学習を行う。 3 生徒指導の一層の充実を図る。 ○生徒の意欲を引き出す指導の展開ができた。 4 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努める。 △食育指導の推進を図る。 5 信頼され、開かれた学校づくりに努める。 ○積極的な情報発信と工夫した学校公開ができた。 6 小・中・高連携の更なる推進に努める。 ○相互の出前授業、授業参観、夏季合同研修会の実施ができた。 7 教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。 ○言語の力を育てる理論研究、研修内容の共有化を進める。	1 一人ひとりに質の高い学力の育成を図る。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 3 生徒指導の一層の充実を図る。 4 「心の教育」の充実を図り、心豊かな人間性を育む。 5 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努める。 6 信頼され、開かれた学校づくりに努める。 7 小・中・高連携の更なる推進に努める。 8 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 9 教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い学力の継続と向上 ・ 学力の実態把握と向上 ・ 思考力、判断力、表現力の育成（言語の力・活用する力） ・ 指導方法の研究と改善 ・ 授業規律の確立 ・ 家庭学習習慣の確立 ・ 学校生活の活性化と日常活動の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な学校運営を推進するため、各分掌との連携強化を行い、教育活動の取組の充実を図る。 ・ SHR、生徒会活動、部活動、学校行事等すべての教育活動を通して生徒たちが自己表現する場を設定する。 ・ 言語の力を育成する校内研修を行う。 ・ 家庭学習の習慣化に向けた日々の課題の提示と添削、やりきらせる指導の継続を行う。 ・ 9教科を3グループにわけ、週末課題の取組を行う。 ・ 授業規律に関する指導の統一を図る。 ・ 生徒会活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程の外部研修を校内研修にフィードバックし、共通理解を図った。 ○言語の力の理論学習、及び視点を明確にした授業研究を実施することができた。 ○積極的な研修と授業改善、生徒の意欲を引き出す学校活性化の取組が教職員はもとより宇川中学校全体の学校力のレベルを引き上げることに繋がった。 △個々の教員による改善・工夫は図られているが、今年度は学習指導部としての積極的な企画や分析、評価研究などが不十分になりがちだった。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の充実を図る。 ・好ましい人間関係の育成を図る。 ・自らの課題を解決する意欲の育成を図る。 ・規範意識の向上を図る。 ・不登校の未然防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきメモによる状況交流を行い、生徒理解を図る。 ・定例の生指部会を行い、全職員一致した指導の確認と早めの対応行う。 ・学級経営、教科指導、部活指導などあらゆる場面で規範意識を向上させる指導の展開を行う。 ・地域、家庭、校種間と連携した生徒指導の充実を図る。 ・定期的な教育相談部会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動、部活動等で「言語の力」を意識した自己表現の取組は学級の人間関係の構築に活かすことができた。 ○気づきメモを定期的に記入することで、情報交流と全教職員が一致した指導の確認が素早くできた。 ○言葉遣い等の指導は規律ある学校生活につながられた。 △生徒指導、教育相談に関わる学級経営力と生徒指導力の向上を目指す。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立 ・安全教育の充実 ・部活動の推進 ・食育指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な性教育、食育指導の充実を図る。 ・毎月1回、校舎内外の安全点検を実施する。 ・一人一人が存在感のある部活動と一人一言「振り返りタイム」の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい内容で工夫した食育指導は充実した。 ○部活動における一人一言「振り返りタイム」の取組は、部活への意欲とチーム力を高めるのに効果的だった。 ○保健・給食日より、掲示等の内容が充実した。 △危機管理マニュアルの見直しと改善を行う。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進 ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実を図る。 ・計画的な二者面談、三者面談の実施を行う。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後学習会と家庭学習課題の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談は、進路に対する生徒の意識を高めた。 ○家庭学習課題と添削指導は、生徒の学習意欲と家庭学習習慣の定着につながった。 △進路学習を充実させるために指導資料の整理を行う。
研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上を図る研修の実施 ・外部研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の研究実践の継続と発展を目指し、全教科の研究授業と言語の力の理論研修を実施する。 ・学校評価の有効活用をする。 ・外部研修の内容を校内研修へフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の力を育てる理論研究が深まり、教材の工夫や授業改善が進んだ。 ○研修で学んだことを伝達し、共有化を図ることができた。 △学校評価の課題を実効性のあるものに改善していく。
小学校・保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の推進 ・教育活動の積極的な公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導・生徒指導に関する小中連携を推進する。（出前授業、相互の授業参観、夏季合同研修会等の充実） ・ホームページを更新する。 ・内にも外にも「広く見せる・聞かせる宇川」を発信する広報活動の充実を図る。 ・PTA活動「家庭教育研修会」を年2回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携では、「学力」の共通課題を認識し、中一ギャップを埋める取組ができた。 ○行事では保護者に限らず多くの地域の方の参加があり、生徒達のチャレンジ意欲と自信につながった。 ○学校の様々な取組は、保護者・地域から厚い信頼と大きな期待を得て、地域に根付く学校へと変わりつつある。 △地域のネットワークを活用し、教育活動を充実させる。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職員の教科指導力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。 2 効果的な運営を目指した各分掌の連携の強化を図り、再配置を視野に入れ宇川活性化に向けた取組の充実を目指す。 3 全教科における質の高い学力の育成と教育活動の充実を目指す。 4 夢を持ちチャレンジする生徒の育成を目指す。（芸術文化の活性化、存在感ある部活動の推進、目的意識を高める進路指導の推進） 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 確かな学力の充実向上 2 心の教育の充実、不登校の未然防止と解消 3 安心・安全で信頼される学校づくり		1 学力 ○府・市平均以上を達成することができた。 ○学力向上のための小中連携を密にした。 △表現力の育成が不十分である。 2 心の教育 ○文化芸術鑑賞の継続実施ができた。 △道徳の時間のさらなる授業改善が必要である。 △S Cの一層の活用と不登校の未然防止及び解消に向けて取組を推進する必要がある。 3 安心安全な学校づくり ○定期的な学校・学年・学級だよりの発行ができた。 △学校公開の周知と参加数が増加する工夫が必要である。	1 学力 ・指導方法の工夫改善と指導体制の充実 ・基礎基本の徹底と思考力・判断力・表現力の向上 2 心の教育 ・道徳の時間の指導の研究と内容充実、文部科学省指定道徳教育推進研究発表会の開催 ・不登校の未然防止と解消に向けた組織体制の確立とS Cおよび関係機関との連携 3 安心安全な学校づくり ・積極的な教育活動や学校運営の公開、HPの更新 ・地域社会との連携、教育力の活用 ・危機管理体制の確立と危機管理意識の高揚
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への移行を見据えた教育課程編成 ・全教育活動を通じた道徳教育の推進と道徳性の育成 ・学習規律、学習習慣の確立 ・読書活動の充実と全ての学力の基本となる言葉の力の向上 ・思考力・判断力・表現力を育成する授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の見直しと改善 ・全教員の道徳研究授業実施と研修による指導力向上 ・学力診断テスト等の分析、小中連携による課題の共有 ・全校学習の定期テスト前実施、補充学習 ・毎朝の読書時間の確保と読書指導による言葉の力の育成 ・教科の授業における言語活動の工夫と表現力の育成 ・生徒に対する授業アンケートの実施と活用 ・文化芸術鑑賞等による感動体験の場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究指定校としての取組を通して道徳教育の研究推進や指導方法の改善が進展し、生徒の道徳性の育成につながった。 ○各種の学力テストで府や市の平均を維持できた。 ○テスト前の全校学習6回、長期休業中の集中補充学習、振り返りスタディを実施し、基礎基本を徹底した。 ○小中連携を深め、小学校に全学級の授業公開を行った。 ○毎学期生徒に授業アンケートを実施し、授業改善にむけて指導方法や内容の工夫をした。 ○生の芸術鑑賞の機会を3回設定できた。 ○時程を変更し、朝読書の時間確保と指導の徹底を図った。 △言葉での表現や伝えあう意欲の育成が不十分である。 △授業規律の徹底、家庭学習の定着が不十分である。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 健全な生活態度の育成、規範意識の向上 心の教育の充実 部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成 相談体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週定例で教育相談部会、生徒指導部会開催 挨拶、返事、後始末の徹底による基本的なマナーの定着 全教育活動における道德教育の推進と、異年齢での活動による、自他を思いやる心の育成 全教職員による学級経営の交流や問題事象の教訓化 問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と生徒・保護者への粘り強い指導 校内相談体制の確立と学校外の機関の活用によるいじめや不登校の未然防止と解消に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の状況把握と指導方針の共通理解により教職員の指導の統一や事象の教訓化が図れた。 ○道德教育の全体計画作成と全校体制による研究推進により、全教育活動を通して道德性の育成を推進した。 ○問題事象の発生を早期にとらえ、拡大防止に努めたことにより、比較的落ち着いて授業や部活動が実施できた。 △規範意識、マナーやルールの順守等が不十分である。 △様々な要因から不登校傾向が改善できない生徒がいる。 △自他を思いやる心、公共心の育成が不十分である。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 保健教育と保健管理の徹底 防災意識の高揚と事故防止 	<ul style="list-style-type: none"> 給食を中心的な教材とした食育の充実 薬物乱用、喫煙防止教室等、実態に即した保健教育と保健管理の徹底 避難訓練、自転車点検の実施、安全マニュアルの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○給食を活用した食育指導、保健指導が推進できた。 ○避難訓練は毎学期実施、交通教室は2回実施、インターネット学習会開催などにより、防犯防災意識を高めた。 △自転車安全運転誓約書の提出が形ばかりで、交通マナーがなかなか改善せず、地域からの苦情が多い。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上と希望進路実現 キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データによる生徒の学力実態や課題を踏まえた指導 3年生の夏季大会後の朝や放課後の学習会の設定 生徒や保護者とのこまめで丁寧な面談の実施 進路にかかわる情報提供等、計画的な進路学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○希望進路実現に向け、生徒との面談をこまめに実施した。 ○保護者との面談、進路相談をきめ細かに実施した。 △3年学習会を実施したが学習意欲が高まらなかった。 △全学年の進路学習計画を組織的に作成する必要がある。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全、生活安全に対する意識の向上と事故防止 危機管理マニュアルの改善と、危機意識、対応能力の向上 教職員の服務規律確保 	<ul style="list-style-type: none"> 警察との連携のもとに交通教室等を保護者も含めて実施 危機管理マニュアルの見直しと改善 学期一回の非難訓練の実施と毎月の安全点検 新聞記事等を活用した時宜に応じた情報提供と指導、研修の実施と日々の危機意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアルを見直し、全教職員で研修を行い意識を高めた。 ○不審者侵入、火事、地震の想定で3回の避難訓練を実施し災害への対応力や、防災意識を高めた。 △細かな気づきの指摘や指導、教訓化が必要である。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の推進 保護者、地域との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> こまめなアンケート実施と意見聴取 学校評議員、保護司、民生児童委員等との日常的な連携 社会人講師として地域人材を多方面で活用 適時性のあるHPの更新や各種通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○本年度新たに保護司会との懇談会を開催した。 ○教科や領域において、多数の地域の人材を活用した。 ○こまめなHP更新、各種便りにより情報提供に務めた。 △授業参観、懇談会への保護者の参加が少ない。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・言語力の育成を視野に入れた授業改善と、学力充実向上の取組 ・文部科学省指定道德教育推進事業指定校としての研究成果と課題を踏まえたより一層の道德教育の推進 ・家庭と連携した生徒の規範意識の向上や生徒指導の充実と不登校の未然防止や解消に向けた取組 ・保護者や地域と連携した信頼される学校づくり、開かれた学校づくりの推進 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「ふるさとを愛し、夢を持ち、賢く逞しく生き抜く生徒の育成」		成果 ・問題事象に対する組織的・原則的な対応と不登校生徒の減少 課題 ・授業改善意欲の向上	「豊かな人間性の育成」「確かな学力の育成」「開かれた学校づくり」について重点方針を提示し、組織的に取り組ませることで、生徒・保護者・地域から信頼される学校をめざす。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
確かな学力の育成	(1) 授業実践力の向上 (2) 言語活動の充実 (3) 読書活動の充実	①感じたことや思いを文字で表現する機会を多く持つ。 ②学習発表会等における内容や発表の仕方を工夫する。 ③系統別部会が創造的に活動し、授業改善意識を高める。 ④関心意欲等、具体的評価内容を交流・充実させる。 ⑤生徒の生活実態を把握し、生徒や家庭に実態を知らせる。 ⑥生徒実態に即した家庭学習のあり方を検討・指導する。 ⑦読書意欲を喚起するため、選書会や帯作り等を工夫する。	○全教育活動を通して「発表」を意識した場面を多くした。題材も工夫したことで発表への抵抗感がなくなった。全校国語（スピーチコンテスト）が発表の質を高めている。 ○系統別部会により、授業形態や資料・発問の工夫等、授業改善への意識は向上した。 ○久美中検定を2学期から実施し、低学力層の学習意欲が高まった。また教科の指導内容にも工夫が見られた。 △家庭学習の実態は把握したが、学習習慣確立に向けた総合的な戦略が未整理である。
豊かな人間性の育成	(1) 道徳教育をすべての教育活動を通じて実践 (2) 規範意識の醸成 (3) 不登校・いじめの未然防止と解消 (4) 積極的なボランティア活動の創造	①問題事象等、課題と指導内容を明確にし、生徒指導部を中心に組織的に対応する。 ②教師の語り込みや働きかけ等を積極的に言い、生徒との信頼関係を作る。 ③学校生活や家庭生活の課題に対して様々な道徳教育（道徳の時間も含む）を実践する。 ④社会人講話から自らを振り返らせ、望ましい生き方を追求させる。 ⑤特別活動を充実させ、リーダー層を中心に組織的な課題解決を追求させる。 ⑥教育相談小会議を機能させ、課題を解決する。 ⑦主体的に取り組めるボランティア活動を創造する。	○規範意識や仲間関係に係る諸問題に対して原則的に対応し、概ね落ち着いた雰囲気与生活させることが出来た。 ○社会人講話を実施し、講師の価値観や生き方に触れることで、自らの振り返りを促すことができた。 ○社会教育と連動した活動を計画・実施し、地域に目看向くとともにボランティア活動への関心も高まった。 △SCと連携した不登校（傾向も含む）生徒別小会議の充実とともに、特別支援体制の充実が求められている。 △教師自身の生き方を問い直し、指導意識を高める。 △保護者に生徒の実態を的確に認識させ、家庭教育力を高めるとともに、地域への働きかけ（啓発）を強める。

<p>体力の向上と健康安全の推進</p>	<p>(1) 食育指導の充実 (2) 部活動の充実と達成感の享受 (3) 緊急時対応訓練の充実</p>	<p>①食育指導を充実させ、望ましい食生活と習慣について考えさせる。 ②教師の指導意識を高め、部活動を充実させる。 ③緊急時対応の訓練を充実させる。</p>	<p>○養護教諭と栄養教諭が連携し、食育指導（「生活習慣病と食生活」）と個別指導を実施した。健康について関心が高まった。 △部活指導のあり方等、職員で交流し、指導意欲を高める。 △緊急時の対応訓練内容を工夫し、具体的対応方法について研修する。</p>
<p>進路指導の充実</p>	<p>(1) 全体計画の検討・改善 (2) キャリア教育の充実</p>	<p>①生徒の実態を踏まえ、進路指導全体計画を改善する。 ②職場体験学習を充実させ、仕事や自分の将来設計について考えさせる。</p>	<p>○地域学習と職場体験学習を連動させ、自分と地域の将来を考えることで将来目標を設定することが出来た。 △生徒実態に合った指導内容を工夫し、全体計画を見直す。</p>
<p>特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 生活実態・学習状況の把握分析と指導計画の充実 (2) 実態交流と具体的支援の検討</p>	<p>①特別な支援を要する生徒の実態を把握し、指導を工夫する。 ②観点別評価C生徒への手立てを意識して指導する。</p>	<p>○特別な支援を要する生徒について実態把握し、指導の改善に生かした。 △個別の支援計画作成に止まらず、具体的実践・交流・改善のサイクルを作り上げる。（教育相談との連携強化と小会議の継続・機能化）</p>
<p>保護者・地域との連携</p>	<p>(1) 家庭・地域社会との連携 (2) 家庭の教育力の醸成</p>	<p>①悪いことも良いことも積極的に家庭連絡する。（家庭訪問・電話連絡等） ②学級通信や学校だより等により生徒の様子を伝える。 ③PTA本部・専門部活動を充実させる。 ④関係諸機関との連携を密にする。</p>	<p>○学校行事等への家庭・地域の関心は高く、行事や普段の取組を通して生徒の頑張りを発信することが出来た。 ○学校での教育活動内容を率直に伝え、協力を求めることが出来た。 △家庭学習も含め、家庭教育力を高めるための総合戦略を構築する。 △小中連携の強化とともに町内諸団体との連携を密にし、子育てネットワークを作る。望ましい久美浜の児童生徒像を確認し、具体的な協働の取組を実施する。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三者会議、企画会議で学校課題を明確にし、組織的な実践により課題解決を図る。 ・豊かな人間性と確かな学力を育成するため、道徳教育、生徒指導、特別活動、進路指導、総合的な学習の時間の連携・充実を図り、全体計画を見直す。 ・不登校生徒（傾向も含む）及び特別支援の必要な生徒について個別の支援を充実させる。 ・系統別部会をさらに充実させ、「楽しい授業研究」をめざす。 ・従来の小中連携に加え、言語活動・表現力の充実、理数科への興味関心の高揚について連携を強化し、具体的実践に結びつける。 ・「授業と学力」「家庭学習の重要性」について生徒・保護者に分かりやすく指導し、保護者の協力を求めながら学校との信頼関係を確立する。 <p>また、地域との連携を深め、望ましい久美中生徒像を共通理解・確認するとともに地域を挙げた具体的な取組を創造する。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立高龍中学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 創意ある教育課程の編成 2 学力の充実・向上 3 心の教育の充実 4 特別支援教育の推進 5 開かれた学校づくり	1 創意ある教育課程の編成 ○高龍中学校教育プロジェクト取組内容の精選等の改善を行った。 2 学力の充実・向上 ○少人数指導等の授業研究、補充指導の工夫によって基礎基本の定着が見られた。 △発展的な指導に課題が残った。 3 心の教育の充実 ○問題事象は年間を通して0であった。 ○「はあとほっとタイム」実施回数の見直し等の改善を図った。 △不登校生徒の解消に課題が残った。 4 特別支援教育の推進 △個別支援計画による具体的な指導に課題が残った。 5 開かれた学校づくり ○学校評価を保護者や関係者に公開、評価を得た。 △学校評価の工夫改善を図る。	1 教育プロジェクトの推進を軸に、創意ある教育課程を編成し、学校運営を組織的に推進 2 学力の充実・向上 (1)基礎的な知識・技能の習得 (2)思考力、判断力、表現力の育成（ことばの力） (3)学習意欲の向上と家庭の学習習慣の確立 (4)読書活動の推進、総合的な学習の時間の充実 3 豊かな人間性の育成 (1)教育相談機能の充実（不登校の解消） (2)道徳教育・進路指導・人権教育・特別活動充実 4 特別支援教育の充実 障害ある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 5 開かれ、信頼される学校づくり (1) 学校・家庭・地域社会の一体化 (2) 学校評価の充実 (3) 家庭の教育力の向上

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 学力の充実・向上 ・学力実態の把握と課題の明確化 ・基礎的な知識・技能の取得 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・学ぶ意欲の向上、家庭学習の習慣の確立 ・読書活動の推進 ・総合的な学習の時間の充実	1 教育プロジェクト会議の定例化 ・生徒指導を軸に5分掌組織を束ね、重点課題解決に取り組む。 2 学力の充実・向上 ・学力課題の分析(CRT、学力診断テスト等)、共通認識 ・京都式少人数授業の実施により、個に応じた指導を行う。 ・全教職員による授業研究会実施(言語活動の充実) ・家庭学習の定着指導（スケジュールノート、課題の提示、点検） ・振りスタ、チャレンジ学習の実施 ・定期的な授業アンケートによる実態把握 ・小中連携（授業参観、出前授業、会議） ・ブックトークの実施 ・体験学習・全校発表会の実施	○家庭学習の充実を目指し、本校アクションプランを策定し、学力向上に向けた教職員の意識が向上した。 ○習熟の程度に応じた授業の実施が基礎学力定着に繋がった。 ○校内授業研究会を年間6回実施したり、教育局の指導主事の講義を聞いたり、言語活動の充実に向けて研修を深めた。 ○課題の提示や点検、スケジュールノートの活用により、計画的・意欲的に家庭学習を進める生徒が増えた。また保護者に学校便り等で啓発し意識化を図った。 ○小学校への出前授業の実施、小中の授業参観を実施し課題を共有した。 △定期的学習アンケートから、家庭学習の時間の課題が残った。 △学力診断テストを分析し、学力課題を一層明確にする。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の未然防止と解消 ・規範意識の高揚 ・自己肯定感の向上 ・情報の共有化、組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握と組織的な対応（生徒指導部会、教育相談部会）、保護者との連携 ・「はあとほっとタイム」の充実 ・全校生徒・学年生徒の道徳教育の工夫 ・SC、相談員、関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○「はあとほっとタイム」を改善し自己肯定感の醸成に繋がった。 ○組織的な教育相談の実施、関係機関との連携、生徒の居場所づくり等の取組により、不登校生徒を減少させることができた。 △人間関係作り改善のための指導方法を検討する必要がある。 △SC、相談員、関係機関との連携強化と個別支援を充実させる。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全確保 ・健康安全意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 毎朝の立ち番、放課後の教職員立ち番 ・「夏みかんの日」の取組の継続発展 ・避難訓練（火災、不審者）、防犯教室の実施 ・性教育、薬物乱用防止教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校時の事故はなかった。PTA の安全への協力体制が高い水準である。京都府交通安全優良校表彰を受賞した。 ○「夏みかんの日」の集会で命の大切さを再確認し、学校生活改善に繋がった。 ○避難訓練実施、講義を受け、安全意識の高揚に繋がった。 △交通安全の意識の徹底を図る。 △健康安全計画の見直しを図る。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 ・コーディネーターを中心とした校内体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の実態把握 ・個別の指導計画の作成・実践・評価 ・特別支援教育の理解を深める研修 ・校内委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の機関との連携を図ることで、指導や対応の仕方等について研修を深めることが出来た。 △通常学級在籍生徒の具体的な支援を図る体制作りを行う。 △教育相談部との連携のあり方を研究することが課題である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現 ・進路学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいた系統的な進路指導 ・体験学習の実施、高校制度学習 ・計画的な進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が希望の進路を実現した。 ○組織的・系統的・計画的な進路指導が出来た。 ○全学年保護者に高校制度改革説明会を実施した。
開かれ、信頼される学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域社会の連携の強化 ・学校評価の充実 ・家庭の教育力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学校公開の実施 ・夏休み地域ふれあい活動の実施 ・評議員、民生児童委員との定期的な懇談 ・学校評価（自己評価）の地域保護者へ発信 ・家庭との連携強化 ・教育講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りやリーフレットの配布・回覧、HP等により情報提供し、本校の教育に保護者も地域も大変協力的である。 ○学校評価（自己評価）を中間・年度末に保護者や関係者に公開し、教育プロジェクトの取組に一定の評価を得た。 ○学校評議員会や民生児童委員との定期的な学校公開・懇談会で積極的に発信が出来た。 ○子育て講演会や教育講演会を開催し、家庭のあり方について研修を深めた。 △学校評価の公表方法を改善し、多くの意見等を得ることで、今後の学校教育の改善に繋がなければならない。
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度は、6年目になる教育プロジェクト研究を更に工夫改善し教育を推進してきた。心の教育の継続・発展により全体的に落ち着いた生活を送っている。部活動の活性化や不登校生徒の減少等に成果があった。生徒の学習意欲や家庭学習の習慣化に向けて、スケジュールノートの導入などにより一定の成果があり、中学校教育の総和である希望進路実現について全員が希望を実現した。保護者のアンケートには、教育プロジェクトに対して83%が好評価している。</p> <p>次年度は、教育プロジェクトの構想を更に工夫・改善したい。学力向上については授業改善と主体的な家庭学習の定着を図るために、一層の工夫改善を図らなければならない。心の教育の充実についてはすべての生徒に自己肯定感の醸成と、不登校生徒の未然防止と解消を重点課題として取り組みたい。そして、保護者や地域、関係機関との連携、小中高の連携を強化し、課題解決を図りたい。</p>		